



〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目10-7  
山梨YMCAグローバルコミュニティセンター  
☎055-235-8543 fax055-235-8553  
Mail kofu21@googlegroups.com

国際会長	A・シャナヴァスカーン(インド)	「より良い世界のために、共に」 (Together for a Better World)
アジア太平洋地域会長	ジョウン・ウォン(香港)	「大きなインパクトを起こそう」(Make a Great Impact)
東日本区理事	山田公平 (宇都宮)	「ワイズの方向性を見極める」(Our Future Direction)
あずさ部部长	ピーター・マウントフォード(甲府)	「めあて 望み」
甲府21クラブ会長	興水順雄	「未来のために行動しよう」(Let's act for future!)

甲府21ワイズメンズクラブ  
2024年8月会報

今月の強調テーマ

戦略2032

【今月の聖句】

選・山縣 譲治

「愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。愛することのない者は神を知りません。」 (ヨハネへの手紙一 第4章7-8節)

8月巻頭言



会長 興水 順雄

キックオフ例会では、江口さん、志村さん、平田さんが新たにメンバーに加わり44名の会員で新年度のスタートとなりました。その後も銀河鉄道の森づくりをするユースのための昼食作り、第2例会、第1回あずさ部評議会、フクロウキャンプと行事が続きました。多くの皆さんにご参加いただき、感謝いた

します。

銀河鉄道の森では、清藤シェフのタコライス、葉袋シェフのダッチオープンでの豚肉料理が絶品でした。ユースのメンバーは、大変喜んで料理を楽しんでいました。次の機会には森づくりを行うユースの支援方々、美味しい料理を食べにご参加ください。第二例会ではフードドライブを行い、多くの皆さんが協力していただき32Kgもの食品が集まりました。給食のない夏休みに痩せてしまう子供たちがいるのは、切ない話です。円安とインフレでフードバンクに集まる食品も相当減っているようです。皆様のご協力に感謝すると共に、この活動は継続して支援して行きたいと思えます。

8月8日から11日までチェンマイでワイズの国際大会が開催されます。甲府21からは佐藤重良ワイズ、山梨YMCAからは福田奈理子さん、ユースリーダーの本田生磨さん(都留文大生)が参加します。海外ですので参加費用もかかります。ユースの支援を掲げているので、本田さんの費用の一部でも支援をしたいと思えます。時間もありませんので、8月第1例会でのニコニコ献金を当てたいと思えます。趣旨をご理解の上、普段より少し多めの献金をしていただきたくお願いいたします。

厳しい暑さが続きますので体調を見ながら、各種行事への参加をお願いします。

8月第一例会プログラム

2024年8月6日(火) 18:30~  
会場: 山梨YMCA 3階大澤英二記念ホール ベテル

- |                  |            |
|------------------|------------|
|                  | 司会 山口 了    |
| 1. 開会点鐘          | 興水順雄会長     |
| 2. ワイズソング・ワイズの信条 |            |
|                  | 奏楽 杉田博子ワイズ |
| 3. 今月の聖句・一言      | 山縣譲治ワイズ    |
| 5. 会長挨拶、ゲスト紹介    | 興水順雄会長     |
| 6. ハッピーバースデー     |            |
| 7. ワイズディナー       |            |
| 8. 会員卓話          | 江口英雄ワイズ    |
| 9. YMCA 報告・諸報告   |            |
| 10. YMCA の歌      |            |
| 11. 閉会点鐘         | 興水順雄会長     |

《8月の誕生者》 Happy Birthday!

- |              |        |       |
|--------------|--------|-------|
| 〈メン〉         | 〈メネット〉 | [敬称略] |
| 興水 順雄 (8/6)  |        |       |
| 藤原 琢也 (8/7)  |        |       |
| 平賀 佳雅 (8/23) |        |       |
| 小野 興子 (8/27) |        |       |
| 飯田 剛 (8/30)  |        |       |



## 2024年7月キックオフ例会報告

書記 荻野 清

日時 2024年7月2日(火) 18:30～  
会場 山梨県地場産業センター『かいてらす』

2024年7月のキックオフ例会が、『かいてらす』で開催されました。ゲストは、あずさ部部長のピーターM.さん、同書記の田中克男さん、山梨YMCAから中田総主事、福田ディレクター、菊池スタッフ、渡辺ユースリーダー及び(株)G.ファクトリー中込社長の7名の方々にご参加いただきました。

定期総会では、小澤公紀直前会長の議長により、2023-2024年度の事業報告及び決算報告がなされ、満場一致で年度締めとなりました。次に輿水順雄新会長が議長となり、2024-2025年度の事業計画案及び予算案を発表し承認されました。また、メネット会より野々垣悦子会長から2023-2024年度報告がありました。

さて、このキックオフ例会では、3名の新入会員が誕生しました。江口英雄ワイズ、志村直毅ワイズ、平田耕治ワイズです。今後の当クラブでのご活躍を期待します。

その後の懇親会では、後藤ワイズの食前感謝、飯田ワイズの乾杯で宴に入り、ゲストスピーチとして、山梨YMCA中田総主事から現状のYMCAと共にユース活動における甲府21クラブの支援に感謝を話され、YMCAスタッフ菊池さん及びユースリーダーの渡辺さんから現状報告がありました。

久々の他会場での例会で、笑顔や雑談が満開の二時間半でした。

(2024年7月より第1例会の開始時間が18:30となります)

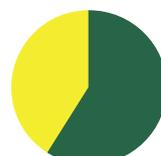


平田耕治ワイズ 江口英雄ワイズ 志村直毅ワイズ

### 今後の予定

8月6日(火)	第1例会 18時半
9月6～8日(金～日)	ユースボランティア・リーダーズフォーラム(山中湖)
9月10日(火)	第2例会 18時半
9月21日(土)	第1例会(ぶどう棚下例会) 11時～

### 《7月例会の出席者》



59.1%

会員数	44名
第一例会出席者	26名
ゲスト参加者	7名
メネット	7名
総出席者数	40名
出席率(会員のみ)	59.1%

### 【会計報告】

2024年7月末現在



項目	ニコニコ	バザー	クリスマス	トータル
目標値	250,000	100,000	50,000	400,000
7月の合計	32,002	0	0	32,002
7月末迄累計	32,002	0	0	32,002
達成率	12.8%	0.0%	0.0%	8.0%

## ペンリレー

## 末木 咲子

「古代からの戦いの意志を受け  
最前線で日本を守る対馬部隊」

末木 咲子

### ＜日本を取り巻く台湾有事＞

中国は台湾を攻撃するのではと言われてい  
ます、それらが海流の影響で日本周辺に流れ  
れば、日本海で船舶が航行できない状況が起  
きて日本にも大きな影響がでます。

それに加え北朝鮮ミサイル発射の頻度が多  
くなっています。また核潜水艦と水中発射核戦  
略武器の保有も明らかにしています。

韓国人は観光で多くの方々を訪れますが中国  
人は一切訪れないそうです。

私たちは山梨の内陸にいるとなかなか最前線  
ではどのような状況か知らずにいます。

実際の様子をみて知るために対馬駐屯地視  
察・研修をさせて頂きました。

長崎県対馬は日本海に位置する島で、日本と  
朝鮮半島の間にあります。対馬港は福岡港か  
ら132Km 韓国の釜山から49、5kmと本  
土より韓国に近くて、韓国の様子が晴れた日  
はよく見えます。古代から中世にかけて、対馬  
は日本と大陸（朝鮮半島や中国）との交易や  
外交の要所として重要な役割を果たしてきま  
した。

### ＜古代からの戦いの歴史＞

宗家対馬藩は、朝鮮との交渉役また国防の  
最先端として江戸時代には10万石格が与え  
られていました。宗家の始まりは初代当主宗  
助国公の元寇(1271)の功績に始まります  
遠く朝鮮半島が見える小茂田浜が主戦場。宗  
助国公が80余騎を率いて蒙古軍2万5千、  
高麗軍8千の兵を迎え打ち、5時間に渡る戦  
いで武将たちは戦没しました。その死を恐れ  
ない戦いぶりが蒙古軍を船上に待機させまし  
た。その事が神風(台風)を引き寄せ国を守  
ることにつながっています。宗助国公の壮絶な  
戦いぶりは、首塚、胴塚、手足塚、と供養す  
る場所が違うことから伺えます。国難を前に  
した時にさっそうと矢面に立ち堂々と戦った宗  
助国公を筆頭に戦った兵を敬い讃えたいと思  
います。国難を前に、どのような行動をとるの  
か、常に私たちも肝に銘じたいと思います。

その後対馬要塞砲台が30設置されました。  
司令部として姫山砲台があったそうです。島内  
のあちこちに史跡があり、当時の様子を物  
語っています。

駐屯地は、明治5年に鎮西鎮台から対馬分  
遣隊が対馬藩の棧原駐屯。明治30年には司  
司令部等が鶏知に移転。大正9年には警備隊か  
ら改編されましたが、終戦により解体しまし  
た。

戦後は米軍の駐留もありましたが、昭和37  
年に別府の第41普通科連隊第4中隊が移駐  
し対馬分屯地が開設され、昭和55年に対馬  
警備隊の新編に伴い、対馬駐屯地に格上げさ  
れたそうです。

課題として、航空機の外国の動向が増えて  
いるそうですが、対馬の防衛力の整備が進め  
られていないそうです。また、島内に700名  
の自衛隊が整備しているそうです。しかし対馬  
が指定公安になっていないそうです。

防人の時代から守っているという習慣がある  
ので、島民との交流が多くフレンドリーだそう  
です。

今後も対馬武人は令和の防人として島民一体  
となり活躍をして頂きたいと思います。



# 「日本での百年」を辿って

カナダ・メソジストの歩み [明治・大正編]  
グウェン・R. P. ノルマン 著  
後藤哲夫 訳  
One Hundred Years In Japan, Part I: 1873-1923

後藤 哲夫

## 第7回 「日本伝道の危機」

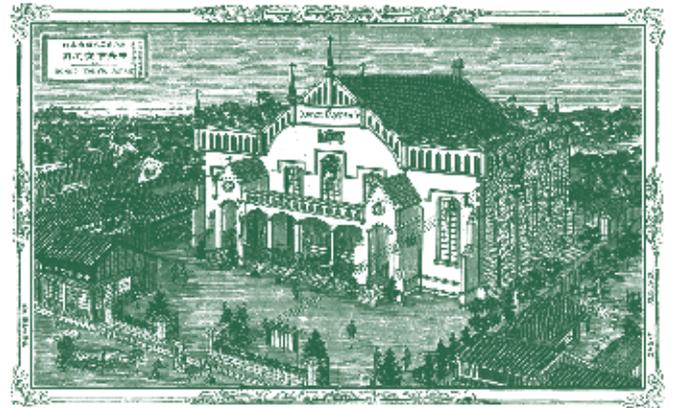
1889 (明治22) 年、山梨英和女学校は設立した。さらに同年、「大日本帝国憲法」も発布された。翌90年、「教育勅語」が出されて、国民を天皇の臣民とする皇国教育が始まった。内村鑑三は勅語朗読の際頭を下げず、大きな問題となって、キリスト教への圧力も増した。1899 (明23) 年、キリスト教学校の存続を危うくしかねない大事件が起こった。キリスト教教育を禁ずる「文部省訓令12号」の発令である。キリスト教教育を続けるならば、各種学校扱いとなり、徴兵猶予の特典もなくなり、上級学校への進学資格も得られないというものだった。男子ミッションの東洋英和学校は、生徒が集まらず、閉校となった。しかし、婦人宣教師たちの3つの英和女学校は、キリスト教教育を堅持し続けた。

さて、このような時代背景の中で、カナダ人宣教師たちはどのようであっただろうか。1895年前後に事件が発生した。それは人間関係の複雑なもつれ、紛糾と呼ぶべきものだった。「男子ミッション宣教協議会」と「婦人宣教局宣教協議会」および、日本人牧師も含まれる「日本年会」、さらにイビーのつくった「自給伝道隊」といった組織が絡んでその糸をほごすのは難しかった。(総会で丸3日議論して、英文200頁の筆記録が残されている)

多くの糸のもつれの一つは、イビーの中央会堂\*の管理・運営に関するものであった。彼の出費は莫大なもので、彼の行動力と発想はすばらしく、宣教活動への貢献は無視できぬものであったが、乱費が多く、中央会堂監査人によると、会計簿をつくることにも非協力的だというのである。一方彼を支持する、カンディーら、彼の自給伝道隊の者も出てきて争いとなっていった。さらにもう一つは、宣教活動において、支配下に置きたいという男子宣教師と妥協をしない独立の精神を持った婦人宣教師の怒りが衝突した事件だった。言うことを聞かない婦人

たちは、ミセス・ラージがいるからだど、彼女への恨みが増し加わった。断固としたミセス・ラージの態度が次第に彼女を、スケープゴートにしてしまった。紛糾の原因はこのほかにもあるが、興味のある方は「本訳書」を読んで欲しい。ミス・カートメルは次のように述べている。

「まるでサタンが教会を引き裂き、破壊するために解き放たれたかのように見えます。散らされた羊がいて、二度と再び戻らないとしても不思議には思えません。」1890年代はこのように苦難と試練の連続であったが、やがて、過去を反省し、組織を改善し、人間関係を再構築し、これまでの傷は、ゆっくりと癒えつつあった。



本郷春木町 中央会堂 明治 24 年

ブリテン委員長 野々垣和宏です。

夏目漱石の三四郎の中に中央会堂に触れている部分があります。中央会堂が建設されたのは1890年。三四郎が朝日新聞に連載されたのは、1908年の9月から12月の事でした。三四郎から少し抜き書きます。

~~~~~ここから引用~~~~~

美禰子の会堂へ行くことは、はじめて聞いた。どこの会堂か教えてもらって、三四郎はよし子に別れた。横町を三つほど曲がると、すぐ前へ出た。三四郎はまったく耶蘇教に縁のない男である。会堂の中はのぞいて見たこともない。前へ立って、建物をながめた。説教の掲示を読んだ。鉄柵の所を行ったり来たりした。ある時は寄りかかってみた。三四郎はともかくもして、美禰子の出てくるのを待つつもりである。

やがて唱歌の音が聞こえた。賛美歌というものだろうと考えた。

~~~~~ここまで引用~~~~~

中央会堂は1924年の関東大震災で焼失してしまいましたが、その後再建されています。私は今年の春に湯島天神へ梅を見に行つたついでに本郷を訪れ中央会堂を見ました。そして、歴史と対峙したのです。

## 第1回あずさ部 信濃の国評議会

書記 荻野 清

今年度のあずさ部部長ピーター・マウントフォード氏の初陣である、「あずさ部信濃の国評議会」が、7月27日（土）の13時から、松本市の『あがたの森公民館』で開催されました。参加者総数 51 名の評議会は、滞りなく議事が進行し、“長野県の歴史”の寸劇が採り入れられ、改めて信濃の国という歴史的成り立ちを実感しました。



## 9月『ぶどう棚下例会』のご案内

9月例会は今年も『ぶどう棚下例会』として、次のとおり開催します。皆様のご参加をお願いします。

今回も甲州市勝沼町の“ぶどうの丘”で、例会+BBQ を楽しみながらの懇親の場を作りたいと思います。垣根を越えたご参加をお待ちしております。

\*日時：9月21日（土）11：00～14：30

\*場所：『ぶどうの丘』

〒409-1302 甲州市勝沼町菱山 5093

TEL：0553-44-2111

<https://budounooka.com/>

\*会費： 5,000 円



## ふくろうキャンプ2024報告

書記 荻野 清

8月2日金曜日に、山梨 YMCA 恒例の『ふくろうキャンプ』が、清里にある山梨県八ヶ岳自然の家において開催されました。

総勢 43 名というの中で、カレー & 鳥の唐揚げ+トウモロコシ焼という豪華な食事を全員参加で、火起こしに始まり、野菜のカットやトウモロコシの皮剥き、ご飯炊き、そしてカレーの仕上げという賑わい時を楽しみました。

今回は、甲府 21 ワイズ 12 名及びメネット 6 名というメンバーで、元気の良い学童に負けられない行動の姿が見受けられました。スナップ写真をご覧ください。



薪でご飯を炊くときに、お鍋の底に「クレンザー」を塗っておくと、ススがこびりつきにくいのです。

## 【第9回 銀河鉄道の森デイワーク(1周年)】

報告：平賀

日時：2024年7月15日(月・祝) 8:30 ~ 16:00

参加ユース：天野亜衣子、石井里歩、本田生磨、宮下敦祈、渡邊夕稀、渡邊結菜、アルシュ清藤アルワニ(インドネシア)(以上7名)

一般：石川啓吾(笛吹市)、清藤直子(インドネシア)、菊池央人(スタッフ)、福田奈里子(スタッフ)(以上4名)

21 ワイズボランティア：小澤公紀、輿水順雄、後藤哲夫、佐藤重良、清藤城宏、葉袋勝、野々垣健五、野々垣悦子、松村禎夫(以上9名)

指導者：千田敦司、國分基彦

合計 22 名(敬称略)



## ◆YMCA便り◆

「つながりによる喜びと希望を」

総主事 中田 純子

ワイズメンの皆様、7月のキックオフ例会の開催、おめでとうございます。ご招待いただいたクラブの皆様と豊かな時間を共有できましたこと、心より感謝申し上げます。

昨年度は、皆様のご協力のおかげで、YMCA を利用している子どもたちはバザーやしめ縄作り、お正月遊び体験、チャリティーラン・フクロウキャンプなど、多くの貴重な体験をすることができました。特に恒例行事においては、保護者の皆様から期待と喜びの声をいただいています。また、YMCA のキャンプ場「銀河鉄道の森」でのデイワークでは、ユースの応援隊として食事の準備や竹細工の指導に尽力していただきました。これらの活動を通じて、ワイズメンの皆様の温かい支援は、子どもたちにとって大きな励みとなり、自己実現の場を提供しています。

今年度も、皆様との「つながり」を大切に、こどもファーストをテーマに掲げ、子どもたちが自分のやりたいことを見つけられるよう支援し、子どもたち同士の絆を深めると共に、ワイズメンや地域との連携を一層強化していきたいと考えています。YMCA が子どもたちにとって居心地の良い居場所となり、彼らが自分の力を信じて成長できる環境を整えていきたいと思えます。皆様の豊富な経験や知識を活かし、子どもたちに多くのことを教えていただけることを期待しています。

また、私たち職員にとっても皆様の支えは大きな力となっています。皆様と共に活動することで、私たちも多くの学びや発見を得ています。新年度も、皆様と力を合わせて子どもたちやユースの成長を見守り、地域に根差した山梨 YMCA を支えていただければ幸いです。この一年間が皆様にとって豊かな活動の年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

